

山形県農林水産部指定管理者審査委員会（令和7年度第4回）の概要

1 日時

令和7年10月22日（水）13時30分～14時40分

2 会場

山形県庁5階 502会議室

3 出席委員

小泉 篤 委員長、細江 大樹 委員、田牧 大祐 委員、山田 忍 委員、
笠井 俊哉 委員、黒田 誠一 委員

4 公開・非公開の別

非公開と決定

5 審査内容及び質疑概要

（1）第一次審査（応募資格に関する適格検査）

事務局が事前に申請書類を調査した結果、募集要項に定める書類・資格・要件が備わっている旨を報告。併せて、委員長が各委員に対し、失格事項のうち「審査委員会の委員に個別に接触したとき」に該当しないことについて確認。それらの結果、申請団体は、選定基準に適合しているものとされた。

（2）第二次審査（基本事項に関する適格検査、申請団体によるプレゼンテーション、提案内容審査）

第二次審査の方法について了承され、申請団体によるプレゼンテーション及び質疑応答の後、審査を行った。

<申請団体との主な質疑応答、意見等>

○人員確保が厳しい状況にある一方で、賃金は上昇している。こうした中で、雇用を十分に確保できるのか。（委員）

●人件費については最低賃金をベースに社会保険を含めて計算しており、人件費の削減は考えていない。雇用した者が誰であっても遊学の森の管理運営に関する最低限の知識や能力が身に付けられるよう、組織内教育を含め対応していきたい。（申請団体）

○施設管理については、現指定管理者から再委託を受けてきたため、これまでの経験が十分にあると認識しているが、運営に関するプログラムはどのように取り組んでいきたいと考えているか。（委員）

●一番重要な部分はこれまでの継続性と考えている。現指定管理者で運営を担ってきた人材を当組合で雇用し、これまでのノウハウを取り入れる方針としており、従来のプログラムやボランティアグループの組織運営体制を維持継

続していきたいと考えている。(申請団体)

○高齢者や障がい者の方などの利用に関する配慮や企画についての考えを教えてください。(委員)

●こもれび館の入口に階段があり、車いすの自動昇降機が設置されているが、それで十分かを検討したい。また、森と触れ合うプログラムについては、施設内の通路が舗装されているため、巡回はしやすくなっている。例えば、園内にQRコードを設置し、森の由来や全国植樹祭の開催地であった経緯なども含め知ってもらえるようなプログラムも検討していきたい。(申請団体)

○利用拡大に向けて積極的な広報を行うという話があった。現在はパンフレットやチラシの配布などが中心と思うが、今後の広報についての計画があれば教えてください。(委員)

●これまで同様に、近隣の施設等にパンフレット等を設置することはもちろんであるが、東北農林専門職大学等と連携し自然環境に関するイベントを開催するなど、専門性のある領域にも活動を広めることで、リピーターの確保や交流人口の拡大に取り組みたい。そのキーワードとして「ネイチャーポジティブ」や「30by30」という点を積極的に打ち出したい。(申請団体)

○現在の利用者について県内と県外の内訳が分かれば教えてください。また、県外利用者を増やすための具体的な取組みで検討しているものがあれば教えてください。(委員)

●現指定管理者からのヒアリングでは、県内が6割、県外が4割と聞いている。県外利用者も割と多く、近隣の宿泊施設であるホテルシェーネスハイム金山の利用者や町内の林業地視察の関係者が中心となっている。今後は、県外から来ていただいた方が、地域の人と交流してもらえるようなハブ施設になっていけばよいと考えている。(申請団体)

○事業計画書の中に東北農林専門職大学との連携が挙げられていたが、これまで農林大学校とは連携の取組みはあったのか。また、東北農林専門職大学とは今後具体的にどのような連携を考えているのか。(委員)

●これまでの管理運営の中で農林大学校とは深い関わりはなかった。東北農林専門職大学の森林業経営学科は、木材生産だけでなく自然環境保全などを含めた経営を行う学科と聞いている。遊学の森は、木材生産を狙いにした施設ではなく、環境保全などの視点では大学と親和性があると考えている。大学の先生が持っている知見を学びながら地域に活かしていきたいと考えている。(申請団体)

<申請者の財務状況について(委員よりコメント)>

貸借対照表では自己資本比率が約50%ということで、一般的には「良好」と分類される。損益計算書では令和6年度は損失が発生しているが、令和4年度、

令和5年度は、2期連続で黒字になっており、財務的に問題はないと考えられる。(委員)

(3) 審査の結果

各委員による採点の集計結果について、「適格審査については、全員が全項目の要件を満たしていると採点し、提案内容については、100点満点のところ、平均点が73.0点である」旨を事務局が報告した。(集計結果に対する質問、意見は無し。)

(4) 採決

各委員から、金山町森林組合を指定管理者の候補者とすべき者として選定することについて、了承を得た。

<主な評価点>

- 金山町の人口は減少しており、県外からの集客を強化しないと利用者数が増えない状況にあると考えられる中、県外からの集客について具体的な取組みを検討している点を評価した。
- これまでの施設管理の実績や運営のノウハウを有する人材の確保体制がしっかりしている点を評価した。
- これまでの遊学の森の自然環境学習的な役割から、東北農林専門職大学等との連携により新たなフィールドとしての活用が期待される点を評価した。

以上